

## 新刊紹介

漫画で解説

## 西堀榮三郎の南極・山岳・品質管理——探検的精神で「未知」を切り拓く

東近江市 西堀榮三郎記念 探検の殿堂 編 2024年3月発行 ¥1800+税

サンライズ出版 <https://www.sunrise-pub.co.jp/isbn978-4-88325-816-1/>

## 西堀榮三郎×東近江市湖東町×殿堂スタッフ——三つの情熱の賜

吉田英生 (S53/1978卒)



京都大学が誇る西堀榮三郎（1903-1989）の生誕120周年記念として、願ってもない本が出ました。西堀家の出身地、東近江市「西堀榮三郎記念 探検の殿堂（以下、殿堂）」のスタッフにより編集された本書は「ハケ岳のような人」と呼ばれた西堀の全体像を詳細かつビジュアルに描いています。西堀が紙面から現れて読者に語りかけ、そのスピリットが伝わってくるような出色の一冊ですが、この本は一朝にして生まれたのではなく、実に半世紀を越える関係者の情熱の賜であることに気がきました。

タイトルに追記した「三つの情熱」の一つ目、西堀榮三郎については拙稿（京機短信376号 <http://www.wattandedison.com/lmanishi-Nishibori.pdf>）でも紹介しましたので、ここでは二つ目、東近江市湖東町から。殿堂は、JRびわこ線（東海道本線）近江八幡で近江鉄道に乗り換え、6駅目の八日市で下車し、さらに北東方向に数キロ——車なしにはアクセスも不便な田んぼと溜め池に接する田園にあり



ます。失礼ながらそんな田舎に、立派な白亜の殿堂が1994年に実現したのは、湖東町長 西堀茂平氏（1929-2013：在職期間は3期1983-1995、たまたま榮三郎と同姓）が1960年代、榮三郎の魅力に圧倒されてぜひとも！と情熱をもって先頭に立ち、地元の人たちも一丸となって推進した素晴らしいプロジェクトの結果でした（参考：滋賀県湖東町建町40周年記念



「注文の多い田園風景——多くの夢と希望に育まれた日本一の田園風景」1994）。

そして三つ目、そのような町だからこそ志に満ちた人たちが集まって存分に活躍できた——気鋭の殿堂スタッフ——市の学芸員 館長の角川(すみかわ)咲江さん、小林亜美さん、田中一美さんのお三方が、西堀榮三郎への限りない敬愛とともに情熱を注いで編集した結晶が本書なのです。マンガ（+イラスト）は小林さんの創作で本書全223ページ中の83ページ。貴重な写真の数々、元南極観測越冬隊員／長男の西堀岳夫氏／品質管理の大家 唐津一氏などへのインタビューや講演も含め、全編に西堀の貴重な情報が満載です。3部からなる全体の構成（次ページに掲載した目次参照）から、一文一文、一画一画の細部まで、どの部分を見てもとことん考え抜かれていることに感銘を受けます。



「西堀隊長のリーダーとしての器量」p.34 「ヘビに睨まれたカエル？ 大親分！今西錦司」p.172

今年4月で没後35年となった西堀榮三郎は、若い世代にはあまり知られていないように思いますし、関連書のほとんどは図書館や古書でしか接することができません。世界は混迷を極め、わが国は何かと落ち目で元気にかける今日、京都大学が輩出した偉大な西堀榮三郎を理解し、「とにかく、やってみなはれ」のスピリットに触れ、勇気をもって前に進む重要性は申すまでもありません。京機会のみなさまも「とにかく、読んでみなはれ」。

湊 長博 京大総長、この本を殿堂のパンフレットとともに、来年から新入生全員に配布してはいかがでしょうか！

